

## 4-1 輸出・加工・業務用需要等に対応した作物生産技術の開発

農業試験場

### 現状と課題

少子高齢化に伴う国内市場の縮小に対応するため、新規の販路開拓が必要となっています。本県ではいちご、なし等を輸出していますが、さらに積極的に展開するためには、推進力のある新品種や価格競争に対抗できる低コスト生産技術の開発が必要となります。また、高齢化や生活様式の多様化により加工・業務用向けの需要が拡大しており、需要の変化に応じた生産技術の開発が求められています。

### プロジェクト目標

輸出に適応した生産技術の開発により輸出の拡大を促進するとともに、水稲では輸出に対応できる品種選定や低コスト栽培体系の構築を図ります。加工・業務用露地野菜では品目選定や栽培技術の確立を行い、一層の低コスト化や安定供給を実現します。



いちご新品種 ミルキーベリー

### 【主な取組】

試験研究課題	内 容
酒造好適米新品種夢ささらの高品質安定栽培技術の確立	酒米として高品質安定生産できる生育条件や、施肥条件及び穂発芽を回避できる最適作期を解明する。
★輸出等に対応した品種選定と低コスト稲作体系の構築	輸出等に適した品種を選定し、省力栽培技術を組み合わせた低コスト稲作体系を構築する。
いちご新品種ミルキーベリーの栽培技術の確立	育苗や親株管理方法の影響、先端障害果や着色果の発生要因の解明により、高品質栽培技術を確立する。
なし(にっこり)に発生する汚果症状の原因究明と防除対策の確立	輸出等の長期貯蔵のため、産地毎の原因菌を特定し、感染時期や感染好適条件を解明して、耕種的・化学的な防除対策を確立する。
輸出向け鉢物の高品質安定生産技術の確立	あじさいやシクラメン用の輸出向け鉢物用土の開発や培土の特性に応じた肥培管理・観賞期間保持技術を確立する。
★水田に適した加工・業務用露地野菜の品目選定と多収安定栽培技術の確立(5-1参照)	

★は、試験研究課題のうち、特に重点的に取り組んでいく課題

### 【成果指標】

指 標	現状(R1)	目標(R7)
輸出に向けた栽培技術の確立(技術数)	0	3
新品種・新品目の安定生産技術の確立(マニュアル数)	0	3

## 4-2 多様なニーズに対応した畜産物の生産技術の開発

畜産酪農研究センター

### 現状と課題

畜産物に対する消費者ニーズは、良質な栄養源としてだけでなく、おなかに優しい牛乳・乳製品や赤肉に旨みのある牛肉を求めるなど、これまで以上に多様化しています。

生産現場では、こうしたニーズに対応するとともに、輸入畜産物や産地間競争に負けないブランド力の高い畜産物の生産が必要となっています。

そのため、特徴ある牛乳・乳製品や赤肉と脂肪のバランスの良い牛肉の生産技術の開発、牛肉・豚肉の旨みなどを客観的に評価する新たな評価指標の確立が求められています。

### プロジェクト目標

消費者の新たなニーズに対応し、消費拡大を図るため、特徴ある生乳の生産技術や乳製品を開発します。

また、食味性に優れた牛肉を生産するため、和牛の肥育技術を開発するとともに、県産牛肉や豚肉の食味に関する特徴やおいしさを評価する新たな指標を開発し、客観的データを活用してブランド力の強化を図ります。



試験製造されたチーズ

### 【主な取組】

試験研究課題	内 容
新たな牛乳・乳製品需要に対応した生乳生産技術及び乳製品の開発	特徴ある牛乳生産のための改良・飼養管理技術と、地域に常在する有用微生物を活用した乳製品を開発する。
★経済性・食味性向上を目指した県産肉用牛生産のための肥育技術の開発	和牛肥育における栄養水準やビタミン給与方法の違いが脂肪組織発達に影響を及ぼすメカニズムを検証し、食味性に優れたバランスの良い牛肉生産技術を開発する。
旨みや香り等の違いに基づく豚肉の新たな評価指標の確立	県産豚肉のブランド化を支援するため、官能評価と理化学性状の関係や旨み・香り等おいしさの指標となり得る要素の解明により、新たな評価指標を確立する。

★は、試験研究課題のうち、特に重点的に取り組んでいく課題

### 【成果指標】

指 標	現状(R1)	目標(R7)
新たな食味や風味を持ち、消費者に選ばれる乳製品の開発数	0	5
経済性・食味性に優れた和牛肥育体系の確立(マニュアル数)	0	1
食味性を加味した理化学的食味指標の確立(牛肉、豚肉)	0	2

## 4-3 収益性向上を目指した水産物の養殖技術の確立

水産試験場

### 現状と課題

本県では、アユやニジマスが盛んに養殖されていますが、近年、餌や電気、燃油等の養魚資材の高騰や死亡率の高い魚病の発生が続いており、生産の低コスト化と安定化が大きな課題となっています。また、サケマス類における海面養殖の隆盛や産地間競争の激化が進行する中で、収益性の高い養殖経営を目指すためには、既存の養殖魚種の高品質化と安定生産が重要であり、生産者から、その技術開発が望まれています。さらに、実需者からは、安全・安心で信頼性のある養殖魚の安定供給が求められています。

### プロジェクト目標

競争力の高い魚種の導入や生産の効率化・低コスト化、県産ブランド魚の品質安定化に向けた技術を開発し、生産者の販売力を強化します。

また、アユの疾病であるACGD\*の効率的な防除技術の開発や、寄生虫症の対策に向けた調査を行い、県内養殖魚の安定生産体制を確立します。

\*アユの異型細胞性鰓病の略称で、鰓に大型の異型細胞が形成される疾病です。本疾病が養殖池に蔓延すると窒息状態のアユが増え、大量死亡につながります。



ニジマス(上)・全雌三倍体サクラマス(下)

### 【主な取組】

試験研究課題	内 容
★高品質・低コスト化を目指した養殖生産技術の開発	新たなニジマス系統の導入に向けた系統別の養殖特性を調査するとともに、全雌三倍体サクラマスの高品質化技術の開発及び生産コスト低減のための飼料の選択方法を明らかにする。
水産物の安定供給のための魚病被害等軽減技術の確立	アユ疾病(ACGD)の効率的な防除技術を開発するとともに、拡大する寄生虫症被害の被害低減方法を確立する。
食の安全・安心・信頼性の確保に向けた魚病検査・モニタリング	魚病診断及び水産用医薬品の使用状況を調査するとともに、天然魚・養殖魚の放射性物質モニタリング調査に取り組む。

★は、試験研究課題のうち、特に重点的に取り組んでいく課題

### 【成果指標】

指 標	現状(R1)	目標(R7)
マス類の高品質化技術の開発(技術数)	1	2
飼育技術効率化による生産コストの低減	100%*1	95%*1
ACGDの効率的な防除技術の開発(技術数)	1	2

\*1:令和2年度における水産試験場飼料試験結果から算出した単位生産量あたりの飼料コストを100%としたときの相対値